

# 大学美術 教育学会 会報 No.23

発行日：平成22年7月26日

編集・発行  
理事長  
総務局長  
総務局事務部長  
事務部

大学美術教育学会総務局広報室  
藤江 充（愛知教育大学）  
山田一美（東京学芸大学）  
佐藤聡史  
〒389-0403 長野県東御市東御牧原 1794-2  
TEL: 090-2560-5998 FAX: 0268-61-6162  
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp  
URL: <http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>

## 学会協議協力学術団体としての 意義と責任を思う



理事長 藤江 充（愛知教育大学）

既に『学会通信』（2010年5月号）にて、学会理事長の就任挨拶をさせていただきましたので、『会報』ではあらためて就任のご挨拶をいたしません、よろしくお願いいたします。

本学会は国立教員養成系大学・学部属する教員による「美術部門研究会」が母体になりました。その部門研究会は、組織加盟の「職能」団体ですが、大学美術教育学会は、組織と関係なく個人の意志によって入会・退会などができる個人加盟の組織です。

本学会はこれまでの実績が認められ、2010年4月に、日本学会協議協力学術研究団体として認定されました。幼稚園から大学までの学校や美術館やなど含む幅広い会員による美術教育研究の場として広く学術界から認められ、責任を求められるようになりました。

その協力団体としての基準は以下のように示されています。

- ① 学術研究の向上を図ることを主たる目的とし、かつその目的とする分野における学術研究団体として活動しているものであること。

- ② 研究者の自主的な集まりで、研究者自身の運営によるものであること。
- ③ 「学術研究団体」の場合は、その構成員（個人会員）が100人以上であること。

学術研究団体として、その組織運営の透明性や学会誌掲載論文の学術的な水準などが厳しく問われる一方、本学会での研究発表や学会誌掲載論文はそうした条件をクリアしたものと高く評価されることとなります。また、昨年度、本学会と日本美術教育学会、美術科教育学会との間での連携・交流を促進するための「造形芸術教育協議会」も発足しました。3学会とも協力学術研究団体となりました。3学会による「学術研究団体の連合体」としての学会協議への申請も視野に入って来ました。3本の矢の喩えのように各学会の力を結集した強力なパワーをもって、美術教育の意義を、広く地域や社会、教育関係者に訴えていくために会員の皆様のご協力をお願いいたします。

まずは、9月の東京大会、その後の関連研究会などへの参加をお待ちしています。

## 平成 22 年度就任の新役員紹介 (16 名)

①学会役職名, ②氏名, ③在任年度, ④所属, ⑤教育・研究分野

① 理事長

- ② 藤江 充 (ふじえ・みつる)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 愛知教育大学教育学部
- ⑤ 美学, 美術教育学



①〔東海〕地区代表理事

- ② 竹井 史 (たけい・ひとし)
- ③ 平成 21-22 年度
- ④ 愛知教育大学教育学部
- ⑤ 美術教育学, 幼児の造形・遊び



① 特別委員 (造形芸術教育協議会担当)

- ② 橋本光明 (はしもと・みつあき)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 信州大学教育学部
- ⑤ 美術教育学



①〔東海〕地区代表理事

- ② 上山 浩 (うえやま・ひろし)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 三重大学教育学部
- ⑤ 美術教育学



① 総務局理事

- ② 相田隆司 (あいだ・たかし)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 東京学芸大学教育学部
- ⑤ 美術科教育学



①〔近畿〕地区代表理事

- ② 加藤可奈衛 (かとう・かなえ)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 大阪教育大学教育学部
- ⑤ 彫刻



① 総務局理事

- ② 大成哲雄 (おおなり・てつお)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 聖徳大学児童学部
- ⑤ 絵画, プロジェクト



①〔四国〕地区代表理事

- ② 阿部鉄太郎 (あべ・てつたろう)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 高知大学教育学部
- ⑤ 彫刻



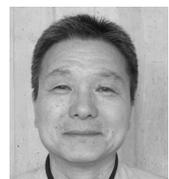
<地区全国理事>

- ①〔北海道〕地区代表理事
- ② 南部正人 (なんぶ・まさと)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 北海道教育大学旭川校 教育学部
- ⑤ 美術科に関する教授法



①〔中国〕地区代表理事

- ② 河野令二 (こうの・れいじ)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 山口大学教育学部
- ⑤ 木材工芸・工作工芸教育



①〔東北〕地区代表理事

- ② 片野 一 (かたの・はじめ)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 福島大学人間発達文化学類
- ⑤ 工芸作品制作・工芸教育



①〔九州〕地区代表理事

- ② 幸 秀樹 (ゆき・ひでき)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 宮崎大学教育文化学部
- ⑤ 美術科教育



①〔関東〕地区代表理事

- ② 渡辺邦夫 (わたなべ・くにお)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 横浜国立大学教育人間科学部
- ⑤ デザイン



① 学会大会運営理事

- ② 立原慶一 (たち原ら・よしかず)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 宮城教育大学教育学部
- ⑤ 美術・工芸教育学



①〔北陸〕地区代表理事

- ② 木村 仁 (きむら・ひとし)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 信州大学教育学部
- ⑤ 美術鑄造



① 監事

- ② 大宮康男 (おおみや・やすお)
- ③ 平成 22-23 年度
- ④ 静岡大学教育学部
- ⑤ 日本美術史 (仏教美術)



# 平成 22 (2010) 年度大学美術教育学会 第 1 回拡大理事会報告

日 時： 2010年6月13日(日) 14:15~15:45

場 所： 「東京文化会館」(東京上野) 4階  
 中会議室No. 1

※ 出席役員数 (32名)

司会進行： 総務局長 山田一美

記 録： 総務局事務部 柳澤 愛

- 1. 開会の辞 副理事長 大嶋 彰
- 2. 挨拶 理事長 藤江 充
- 3. 理事長ほか地区代表理事・私学代表理事、各種委員会  
委員長の自己紹介
- 4. 議 事

## 【報告事項】

- (1) 配布資料確認 総務局長
- (2) 平成 21 年度決算 学会総務部長 山口喜雄  
事務部長 佐藤聡史
- (3) 会員状況報告 事務部長
- (4) 学会・部門会員申込書・会費入金方法  
(※ 部門役員会と合同協議) 総務局長
- (5) 各種委員会報告
  - ・学会誌委員会報告 委員長 大嶋 彰
  - ・国際交流委員会報告 委員長 山口喜雄
- (6) 日本学術会議協力学術研究団体指定報告  
総務局 芳賀正之
- (7) 第 1 回日本学術振興会  
「有志賞受賞」候補者(推薦) 総務局長
- (8) 7月発行「学会会報・第 23 号」原稿依頼  
総務局長
- (9) 役員(理事)・各種委員への委嘱状の扱い  
総務局長
- (10) 三学会連携関係  
(日本美術教育学会岡山大会案内) 総務局長
- (11) 平成 23 年度大会開催大学  
立原慶一(開催大学・宮城教育大学)
- (12) その他

## 【協議事項】

- (1) 平成 22 年度役員(理事)・各種委員構成と任期  
理事長
- (2) 平成 22 年度学会誌論文掲載料の値上げについて  
理事長
- (3) 平成 22 年度事業計画(案) 総務局長
- (4) 平成 22 年度予算(案) 部門総務部長
- (5) 「東京大会」の日程・予算・運営・参加費等  
(※ 拡大理事会で合同協議)  
大会実行委員長 大坪圭輔  
総務局理事 三澤一実  
部門大会運営委員 相田隆司
- (6) 平成 24 年度大会開催大学  
幸 秀樹(九州地区代表理事・宮崎大学)
- (7) 美術部門・全美協の連携協定  
(※ 部門役員会と合同協議)
- (8) その他

## 5. 閉会の辞

副理事長

\*\*\*\*\*  
 藤江理事長の挨拶の後、上記の報告事項と協議事項に沿って討議された。

要点としては、本学会が日本学術会議の協力学術研究団体指定を受けたことであり、本学会の責務と使命をより明確にしていく必要があること、また同時に平成 21 年度収支決算報告を踏まえ、平成 22 年度から学会誌投稿論文の掲載を 1 論文 30,000 円に引き上げざるをえない状況が示され、承認された。

平成 23 年度大会は宮城教育大学が、平成 24 年度は大分大学が運営を担当することとなった。

(報告：総務局長)

# 平成22年度役員・各種委員会委員氏名一覧

## 役員氏名一覧

■理事長 藤江 充（愛知教育大学22-23）

■副理事長

大嶋 彰（滋賀大学21-22：学会誌委員長）

※ 山田一美（東京学芸大学22.4-22.9迄）〔兼任〕

■特別委員

橋本光明（信州大学22-23：造形芸術教育協議会担当）

■＜総務局＞

総務局長 山田一美（東京学芸大学21.22）

学会総務部長 山口喜雄（宇都宮大学20.21.22）

※ 部門総務部長 新関伸也（滋賀大学21-22）

理事

芳賀正之（静岡大学20.21.22），大泉義一（横浜国立大学20.21.22），内田裕子（埼玉大学21-22），小泉 薫（お茶の水女子大学附属中学校21-22），三澤一実（武蔵野美術大学20.21.22），竹内とも子（千代田区立九段小学校21-22），大成哲雄（聖徳大学22-23），相田隆司（東京学芸大学22-23）

＜事務部＞

部長 佐藤聡史（民間21.22）

部員 柳澤 愛（民間21.22）

■地区代表理事

I〔北海道〕

前田英伸（北海道教育大学岩見沢校21-22）

南部正人（北海道教育大学旭川校22-23）

〔東北〕

立原慶一（宮城教育大学21-22）

片野 一（福島大学22-23）

II〔関東〕

相田隆司（東京学芸大学21-22）

渡辺邦夫（横浜国立大学22-23）

III〔北陸〕

郷 晃（新潟大学21-22）

木村 仁（信州大学22-23）

〔東海〕

竹井 史（愛知教育大学21-22）

上山 浩（三重大学22-23）

IV〔近畿〕

鈴木幹雄（神戸大学21-22）

加藤可奈衛（大阪教育大学22-23）

〔四国〕

杉林英彦（愛媛大学21-22）

阿部鉄太郎（高知大学22-23）

V〔中国〕

高橋正訓（島根大学21-22）

河野令二（山口大学22-23）

〔九州〕

桶田洋明（鹿児島大学21-22）

幸 秀樹（宮崎大学22-23）

■私学代表理事

山中 隆（華頂短期大学21-22）

水島尚喜（聖心女子大学22-23）

■学会大会運営理事

大坪圭輔（武蔵野美術大学21-22）

立原慶一（宮城教育大学22-23）

■監事

西村俊夫（上越教育大学21-22）

大宮康男（静岡大学22-23）

■学会各種委員会

（1）学会誌委員会（平成22年度委員 22名）

委員長 大嶋 彰（滋賀大学21-22）

副委員長 三澤一実（〔総務局〕武蔵野美術大学21-22）

〔平成21-22年度委員 11名〕

委員

蝦名敦子（弘前大学21-22），佐藤哲夫（新潟大学21-22）

栗田真司（山梨大学21-22），新野貴則（山梨大学21-22）

神野真吾（千葉大学21-22），河野令二（山口大学21-22）

日野陽子（香川大学21-22）前村 晃（佐賀大学21-22）

小林貴史（東京造形大学21-22），久保村里正（文教大学21-22），水島尚喜（聖心女子大学21-22）

〔平成22-23年度委員 6名〕

斉藤泰嘉（筑波大学22-23）

佐藤賢司（大阪教育大学22-23）

鈴木廣之（東京学芸大学22-23）

高須賀昌志（埼玉大学22-23）

中村和世（広島大学22-23）

藤田英樹（島根大学22-23）

〔総務局〕

新関伸也（滋賀大学21-22），芳賀正之（静岡大学21-22），内田裕子（埼玉大学21-22）

（2）国際交流委員会（平成22年度委員 14名）

委員長 山口喜雄（宇都宮大学21.22）

副委員長 向野康江（茨城大学22.23）

委員

安東恭一郎（香川大学21.22），池内慈朗（埼玉大学21.22），鈴木幹雄（神戸大学22.23），金子宜正（高知大学21.22），福田隆真（山口大学21.22），仲瀬律久（聖徳大学22.23），浜本昌宏（元三重大学22.23），煤孫康二（岩手大学21.22/22年度事務局），長田謙一（首都大学東京21.22），甲田小知代（新潟市立小新中学校22.23），結城孝雄（東京家政大学22.23）

〔総務局〕竹内とも子（千代田区立九段小学校22.23/22年度事務局）

# 平成 21 年度事業報告

# 平成 21 年度決算（案）

# 事業報告・決算（案）

- 5月23日 拡大総務局理事会〔東京学芸大学〕
- 6月13日 拡大理事会, 学会誌委員会, 国際交流委員会  
〔東京学芸大学〕
- 6月17日 第48回大学美術教育学会「愛知大会」第1  
次案内及び「学会通信」発送
- 7月17日 大学美術教育学会「愛知大会」研究発表・ポ  
スター発表申込締切
- 8月20日 大学美術教育学会「愛知大会」研究発表・ポ  
スター発表要旨締切, 投稿論文登録申込締切
- 8月下旬 平成20年度会計監査, 平成21年度「学会会  
報・第21号」, 「愛知大会」第2次案内発送
- 9月13日 総務局理事会〔東京学芸大学〕
- 9月15日 大学美術教育学会「愛知大会」事前参加申込  
締切, 投稿論文提出締切
- 9月 日本学術協力団体申請
- 9月25日 拡大理事会, 学会誌委員会, 国際交流委員会  
〔名古屋: ナディアパーク国際デザインセンター〕
- 9月26日 第48回大学美術教育学会「愛知大会」, 開会  
式, 課題研究, ポスターセッション, 研究発  
表, 部門・学会合同懇親会〔名古屋: ナディア  
パーク国際デザインセンター〕
- 9月27日 研究発表, 学会総会, 閉会式 大会開催大学  
引継ぎ(愛知教育大学—武蔵野美術大学)  
次期理事長選考委員会の設置〔名古屋: ナディ  
アパーク国際デザインセンター〕
- 11月7日 学会誌委員会
- 12月上旬 掲載論文提出締切, 学会誌編集作業開始

## (平成 22 年)

- 1月31日 拡大総務局会〔東京学芸大学〕
- 1月31日 平成21年度学会会員名簿発行・発送
- 2月10日 「学会通信2010年2月号」発行
- 2月28日 拡大総務局理事会・学会フォーラム「造形活  
動を通じたコミュニケーション力(りよく)」  
〔お茶の水女子大学附属中学校〕
- 3月14日 拡大理事会, 学会誌委員会・国際交流委員会  
〔東京学芸大学〕
- 3月31日 学会誌・第42号発行, 「学会会報・第22号」  
発行(発送4月下旬)。

## <収 入>

費 目	平成21年度 予 算	平成21年度 決 算	増 減	備 考
前年度繰越	1,108,873	1,108,873	0	
会 費 収 入	3,000,000	2,955,000	-45,000	591名×5,000
学会掲載負担金	1,250,000	1,300,000	50,000	52名
雑 入	0	5,000	5,000	学会誌売上等
収入合計	5,358,873	5,368,873	10,000	

## <支 出>

費 目	平成21年度 予 算	平成21年度 決 算	増 減	備 考
研究大会補助金	50,000	50,000	0	
概 要 刊 行 費	300,000	300,000	0	
学会誌刊行費	2,800,000	2,250,000	-550,000	
学会会報刊行費	100,000	88,000	-12,000	44,000×2回
学会通信刊行費	40,000	56,800	16,800	愛知大会一次案内
会員名簿刊行費	60,000	262,500	202,500	
学会封筒印刷費	30,000	36,300	6,300	
運営委員会費	100,000	0	-100,000	
理 事 会 費	100,000	413,740	313,740	
学会誌委員会	50,000	132,400	82,400	
委員等経費	250,000	0	-250,000	
交 通 費	400,000	579,820	179,820	
通 信 費	200,000	261,390	61,390	
事 務 費	100,000	27,531	-72,469	
雑 費	50,000	46,816	-3,184	
予 備 費	328,873	27,800	-301,073	
事務運営費	400,000	505,000	105,000	
次年度繰越		330,776		
合 計	5,358,873	5,368,873		

# 平成 22 年度事業計画 (案)

(平成 22 年 4 月)

「学会会報・第 22 号」, 発行 H22. 3. 31,  
発送 22. 4. 30 (大会予告)

[平成 22 年度]

6 月 1 日 (水) 大学美術教育学会「東京大会案内 (第 1 次)」及び「学会通信 5 月号」発送

6 月 平成 21 年度会計監査

6 月 13 日 (日) 総務局会議・第 1 回拡大理事会・各種委員会 (学会誌委員会・国際交流委員会)  
〔上野文化会館〕

7 月 12 日 (月) 大学美術教育学会「東京大会」研究発表 (口頭)・ポスター発表・ポスター展示の「申込締切」

7 月下旬 「学会会報・第 23 号」, 「東京大会案内 (第 2 次)」 発送

7 月 31 日 (土) 投稿論文「登録締切」

8 月 13 日 (金) 研究発表 (口頭)・ポスター発表要旨「提出締切」

9 月 12 日 (日) 総務局会議〔予定, 都内施設, 又は東京学芸大学〕, 投稿論文締切 (消印有効)

9 月 18 日 (土) 拡大総務局会議, 拡大理事会, 各種委員会 (学会誌委員会・国際交流委員会)〔東京: 武蔵野美術大学〕

9 月 19 日 (日) 第 49 回大学美術教育学会「東京大会」開催〔東京: 武蔵野美術大学〕

学会開会式, シンポジウム, 研究発表 (口頭), ポスター発表・ポスター展示, 学会・部門合同懇親会

9 月 20 日 (月) 研究発表, 学会総会, 閉会式 大会開催  
大学引継ぎ (武蔵野美術大学一宮城教育大学)

9-11 月 「学会通信」Web 発行 (大会速報, 12 月シンポジウム案内)

10 月 30 日 (土) 学会誌委員会 (掲載可否の審議)

12 月上旬 学会誌編集作業開始

12 月 三学会連携関係シンポジウム (開催検討中)

(平成 23 年)

1 月 29 日 (土) 総務局会議 (予備, 必要に応じて開催)

3 月 14 日 (月) 又は 15 日 (火) 拡大総務局会議, 第 3 回拡大理事会, 各種委員会 (学会誌委員会・国際交流委員会)〔東京文化会館予定〕

3 月 20 日 (日) 「学会誌・第 43 号」発行, 「学会会報・第 24 号」(仙台大会予告) 発行

(※ 3 月末日) 次年度組織・運営に関する執行部・各役員  
の引き継ぎ)

# 平成 22 年度予算 (案)

<収 入>

費 目	平成 21 年度 決 算	平成 22 年度 予 算	増 減	備 考
前年度繰越	1,108,873	327,776	-781,097	
会 費 収 入	2,955,000	3,125,000	170,000	625 名×5,000
学会掲載負担金	1,300,000	1,500,000	200,000	50 名×30,000
雑 収 入	5,000	15,000	10,000	
収入合計	5,368,873	4,967,776	-401,097	

<支 出>

費 目	平成 21 年度 決 算	平成 22 年度 予 算	増 減	備 考
研究大会補助金	50,000	0	-50,000	
概要刊行費	300,000	200,000	-100,000	
学会誌刊行費	2,250,000	2,200,000	-50,000	
学会会報刊行費	88,000	90,000	2,000	45,000×2 回
学会通信刊行費	56,800	50,000	-6,800	25,000×2 回
会員名簿刊行費	262,500	0	-262,500	次回 2011 年度
封筒その他印刷費	36,300	40,000	3,700	
大会案内印刷費	0	50,000	50,000	東京大会一次案内
理 事 会 費	413,740	300,000	-113,740	
学会誌委員会費	132,400	120,000	-12,400	
その他委員会費	0	100,000	100,000	
会 議 費	0	30,000	30,000	
交 通 費	579,820	450,000	-129,820	
通 信 費	261,390	10,000	-251,390	
郵 送 費	0	250,000	250,000	
事 務 費	27,531	30,000	2,469	
支払手数料	0	5,000	5,000	
雑 費	46,816	30,000	-16,816	
予 備 費	27,800	512,776	484,976	
事務関係委託費	505,000	500,000	-5,000	
次年度繰越	330,776			
合 計	5,368,873	4,967,776		

<会員数> (名)

男	498
女	140
合計	638

平成 22 年度 7 月 8 日現在

## 平成 22 年度前期学会誌委員会報告

学会誌委員会 委員長 大嶋 彰  
(滋賀大学)

本年度より本学会は日本学術会議協力学術研究団体の指定を受け、学会誌委員会の社会的役割も一層大きなものとなりました。投稿論文の査読や編集業務に関しても、これまで以上に責任を持って遂行しなければならないと考えております。

しかし本年度より、学会の財政事情等の理由から学会誌委員の定員削減が行われ、その結果、新委員を6名におさえ、合計 17 名の委員で業務を行うこととなりました。学会誌発行までには、今まで以上に会員の皆様のご協力が必要と思われます。どうかよろしく願いいたします。

今年度の主な活動は、以下の日程で行われます。

6月13日(日)	第1回学会誌委員会
7月31日(土)	投稿論文「登録締切」(必着) 投稿論文「登録」受理通知・ 執筆要領返信(受付後随時返信)
8月～	査読委員委嘱交渉
9月12日(日)	投稿論文締切(消印有効)
9月18日(土)	第2回学会誌委員会 (東京大会前日)
9月下旬～10月中旬	論文査読
10月30日(土)	第3回学会誌委員会 (掲載可否の審議) 順次査読結果通知
1月8日(土)	データ入校(必着)、順次校正
1月末	掲載負担金納入
2月末	校了
3月中旬	第4回学会誌委員会
3月20日(日)	「学会誌・第43号」発行、郵送

また、現在検討している課題に、査読者と投稿者間の評価に対する齟齬を少なくするための方策として、査読報告書に観点別評価の欄等を新たに設ける予定です。少しでも両者の意思疎通を図ることを目指していきたいと考えています。ピア・レビューが学会の生命線となりますので、査読のより良いあり方を巡ってさらに検討を重ねていきたいと思っております。

## 平成 22 年度前期国際交流委員会報告

国際交流委員会 委員長 山口 喜雄  
(宇都宮大学)

第1回：2010年6月13日(日) 東京文化会館

出席：甲田小知代、向野康江、鈴木幹雄、竹内とも子、  
浜本昌宏、山口喜雄【敬称略50音順】

### 1) 新任甲田委員・出席委員自己紹介と協議

- ① 委員会協議の十分な時間の確保のため拡大理事会とは別な時間を確保したい。→本部は予算削減の方針のため、現片道支給でも交通費の支給が難しい。結果、当日の拡大理事会後に再度協議を再開継続。
- ② 2002年度に本委員会が発足し、海外の美術教育の国内への紹介を行ってきたが、日本の美術教育を発信する視点も大事にしたい。→毎回の委員会で研究交流を行う時間の創設、学会の次年度発表会で本委員会企画の発表を設定するなどを検討し、可能なことから具体化したい。
- ③ 委員会での決定事項を実行してほしい。→事前に何度も全委員に協議や『国際交流情報』企画の内容をメールで送信した。委員長が失念していた内容は訂正復活する。

### 2) 国際交流委員の総数および任期の策定

- ① 本部から委員数削減の提案があり、協議した。→2010年1月発行の『国際交流情報第2号』で担当が手薄な欧州・中南米など本委員「募集」を公示した経緯があり、毎回出席が40%程度のため予算に影響を及ぼさない。出席少数委員の「協力者」化も出されたが、研究内容やそのアプローチの仕方、各国との人脈などは学会全体の財産と考え、『国際交流情報』への投稿他で、本学会の国際化のため現員を維持する。
- ② 本委員会は3年任期で検討してきたが、他の役員等が2年任期のため2年任期半減上陸制とする。
- ③ 年齢・出席数・担当地域等を勘案し、各年度委員を策定した。なお、再任もある。

#### 【21-22年度委員】

安東・池内・金子・煤孫・長田・福田・山口

#### 【22-23年度委員】

甲田・向野・鈴木・竹内・仲瀬・浜本・結城

### 3) 藤江理事長からの要望

アメリカ、韓国の国際交流の窓口になってほしい。→平成19年度に4頁の『国際交流委員会』報告の発行、平成20年度に『国際交流情報』創刊と展開してきた。毎回の委員会開催がようやく軌道に乗ってきた。前向きに検討したい。

## 第49回大学美術教育学会東京大会の前日会議及び大会当日の概要

<平成22年度 日本教育大学協会全国美術部門大会日程>

会 場： 武蔵野美術大学 東京都小平市小川町1-736

交 通： 第49回大学美術教育学会ホームページ <<http://daibi.exblog.jp/>> 参照

### ■【前日】9月18日（土）

各種委員会・役員会・拡大理事会

※各会議〔 〕は最多参加人数

会場 時程	12号館8階 第1会議室A	12号館8階 第1会議室C	12号館8階 第4会議室	12号館8階 第1会議室B	12号館6階 共用ゼミ室
12:30~	受付(会議室入口) 総務局会議 〔12名〕			附属学校委員会 〔5名〕	
13:00~ (30分)	学会誌委員会 〔22名〕		国際交流委員会 〔14名〕	附属学校委員会	教科内容学検討 委員会全体会 〔16名〕
13:30~ (60分)	学会誌委員会		国際交流委員会	全造連大学委員会 総会(部門各種委 員〔9名〕+ 全美 協役員数)	教科内容学検討 委員会
14:30~ (60分)	☆全国美術部門役 員会(部門役員 〔38名〕)			全美協総会	教科内容学検討 委員会
15:30~ (90分)	★拡大理事会 (学会役員・部門 役員・各種委員長 〔40名〕)			全美協主催行事 公開実践発表 ※部門の方も是非 ご参加下さい。	教科内容学検討 委員会全体会
17:10~		全造連大学委員会 (福島大会報告)			
17:30~ (120分)		懇親会(3,000円)			

<備考>

★拡大理事会構成員： 学会役員(部門役員) + 地区代表理事(地区全国委員) 大会運営理事  
(大会運営委員) + 監事 + 学会・部門の各種委員長 + 総務局

☆部門役員会構成員： 部門役員 + 地区全国委員 + 監事 + 部門の各種委員長 + 総務局

■ 9月19日（日）

大学美術教育学会【大会第1日目】

(開会式・シンポジウム・パネルディスカッション・ポスター発表・研究発表Ⅰ・懇親会)

(全国美術部門大会〔開会式・総会・協議会・懇親会〕)

8:50	受付
9:30-9:50	教大協全国美術部門 開会式・総会 (1号館 第1講義室)
9:50-10:20	教大協全国美術部門協議会 (1号館 第1講義室) 「平成21年度教科内容学検討委員会のまとめと論点整理」 パネリスト：松浦 昇（金沢大学教授），小澤基弘（埼玉大学教授）
10:25-10:35	大学美術教育学会開会式 (1号館 第1講義室)
10:45-12:10	シンポジウム
12:10-13:00	昼食・休憩
13:00-14:25	パネルディスカッション
14:30-14:55	ポスター発表
15:00-18:00	研究発表Ⅰ（口頭）
18:10-20:00	懇親会 (鷹の台ホール)

■ 9月20日（日）

大学美術教育学会【大会第2日目】

(研究発表Ⅱ・学会総会)

8:50-9:20	受付
9:20-12:20	研究発表Ⅱ（口頭）
12:30-13:00	学会総会 (1号館 第1講義室)









## 平成23年度大会に向けて

日本学術会議  
協力学術研究団体指定報告大会運営理事 立原 慶一  
(宮城教育大学)総務局理事 芳賀 正之  
(静岡大学)

平成23年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第50回大学美術教育学会を宮城教育大学が引き受けることになりました。同様な学会を平成22年3月に仙台市の「メディアテーク」で開かせて頂きましたので、今回は青葉山の大学キャンパスで行うことにしました。同キャンパスは同年3月に全面改修工事を終え、見た目も使い勝手も良くなり全国大会の会場として、十分に耐えると思っております。

時期につきましては例年通り秋口を考えております。細かな日程は大学の行事との関係を睨んで、決めさせて頂きたくことにします。運営方針として研究発表を何よりも重視し、そのための時間を十分に採り、発表者もフロアーも互いに満足できる事態を心がけたいと考えております。

シンポジウムにつきましては一件とし、テーマは東北地区各大学と連絡をとりあって決定したいと存じます。去る6月に東北二部会(美術部門)が岩手大学を当番校として盛岡市で開かれました。その際も協議題として討議されました。各大学から候補として出されたテーマの特徴をあげますと、全面的に改組された大学と、これまで通りで改組されない大学の間で、問題意識の違いが顕著に見られました。生涯教育路線を目玉に、地域社会との関わりを存立基盤とする大学と、生涯教育を一部維持しつつも、あくまで教員養成を拠り所とする大学に二分されたことが、その背景にあるように思われました。この件につきましては、引き続き検討させて頂きたいと存じます。

参加予定の会員の皆様には、日本三景の松島、山寺、中尊寺などに足を伸ばして観光して頂くとともに、仙台の笹かまぼこ、牛タン、山形の板そばを味わうなど十分満足して頂けると思います。

昨年の11月、日本学術会議協力学術研究団体としての指定を受けるべく申請を行い、平成22年4月22日付けをもって、日本学術会議協力学術研究団体として指定を受けました。すでに、総務局が立ち上がる以前からこの話は進められてきており、学会としての大きな課題であり、目標でもありました。総務局の中では、大泉義一先生(横浜国立大学)が担当され、作業を進めていく中で、昨年9月より後半の作業を引き継ぎました。今回の申し込みから指定を受けるまでの間に、学会ホームページの作成、名簿の作成、設立趣意書や指定要件確認書の作成など、様々な作業もあったのですが、総務局の先生方をはじめとし、理事の先生方の助言等もいただきつつ、多くの方々のご協力を得て書類等を提出することができました。また、学会の活動が分かる資料の提出も必要であり、学会誌はもちろんのこと通信や会報、さらには国際交流委員会の会報など、審査を受けるに当たっては、素晴らしい資料が整い、まさに効果的であったと実感しております。ところで、申請条件の一つとして、この学会がホームページを持っていることが必要であり、当初の段階では申請に必要なものとして学会ホームページを作成した面もあったのですが、年々、学会ホームページの必要性が増してきており、今回、指定を受けたことを機に、学会ホームページを新しくすることを検討しているところです。(詳しくは「学会ホームページの“いま”」で述べています。)日本学術会議協力学術研究団体規定に示されているように、「学術研究の向上発達を図ること」が、今後の学会のあり方として重要な課題だと考えます。学会の充実・発展が美術教育のさらなる発展へと繋がっていくに違いありません。

## 学会誌掲載料の変更について

## 三学会連携情報

2010年6月13日

「大学美術教育学会誌」に投稿予定の会員の方へのお願い

大学美術教育学会理事長 藤江 充  
学会誌委員長 大嶋 彰  
総務局長 山田 一美

会員の皆様には、益々ご清栄のことと思います。

大学美術教育学会は、平成21年11月18日付けをもって、日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けました。これによって、本学会発行の「大学美術教育学会誌」の掲載論文は、審査有り、日本学術会議協力学術研究団体の学会誌への掲載という形で研究業績となります。社会的な評価の高まりと同時により強い責任も求められるようになりました。

そうした学会活動が盛んになる一方で、大学美術教育学会の財政運営は厳しくなっています。6月13日に東京で開催されました拡大理事会には、切迫した財務上のデータを提示して、学会誌論文掲載料の値上げについて審議をいただきました。議論の結果、やむを得ない状況にあることが理解され、1論文の学会誌掲載料現行25,000円を今年度から30,000円に改定させていただくことが承認されました。

既に現行規程の25,000円で投稿案内がお手元に届いているかと思います。総務局としては、学会誌発行に伴う諸費用を合わせた原価が1冊1,800円をうまわめることもあり、5,000円の会費のうち、他の活動に当てる経費を確保するために、学会誌論文掲載料を改定したいという意向は以前よりありました。ただ、第一次の投稿案内を出す時期と今年度の拡大理事会で掲載料の値上げを審議する時期との間にズレがあり、第一次の投稿案内には現行の規程にしたがいました。

なお、今年度の学会誌編集に関しては、掲載料の値上げ以外は、現行の規程を適用していきますが、次年度以降の投稿規程に関しては、現行のものを整理して、より明解な形にしていくことも、拡大理事会で承認されたところです。

投稿予定会員には、手続き上の混乱のうえ、負担増をお願いすることになり、まことに申し訳ございませんが、ご理解とご協力をいただければ幸いです。

### ■第33回 美術科教育学会大会 富山大会

日時：平成23年(2011)3月26(土)、27(日)日

会場：富山大学五福キャンパス人間発達科学部  
各教室、黒田講堂

大会テーマ：「感じる 伝える 美術(アート)の力  
～実践知の発見と共有～」

シンポジウム：基調講演に岩井俊雄氏(メディアアーティスト) 予定

運営委員長：長谷川総一郎(富山大学芸術文化学部)

運営事務局長：隅 敦(富山大学人間発達科学部)

後援：富山県教育委員会、富山県造形教育連盟

参加申込、発表募集、会費、懇親会等については、  
追って学会HP等で案内いたします。

### ■第59回 日本美術教育学会学術研究大会 — 岡山大会 —

日時：2010年8月7日(土)・8日(日)

会場：岡山県立美術館 岡山市北区天神町8-48

◇シンポジウムテーマ：

「“つながる力”をともに育てる美術館と学校  
—地域からの、地域への発信—」

基調提案：赤木里香子氏(岡山大学大学院)

コーディネイター：森 弥生氏(岡山県立美術館)

シンポジスト：中平千尋氏(長野市立櫻ヶ岡中学校)  
山崎博之氏(岡山市立太伯小学校)  
岡本裕子氏(岡山県立美術館)

◇記念講演：「琴平山再生計画」

田窪恭治氏(美術家・金刀比羅宮文化顧問)

◇会長講演：「日本の美と出会う」

神林恒道氏(大阪大学名誉教授)

#### <参加申込方法>

学会ホームページのフォームから申し込むか、参加  
申込書にご記入の上、日本美術教育学会事務局にFAX  
又は郵送してください。

<問合せ先> 岡山大会事務局

E-mail: office-okayama@aesj.org

## 事務局よりご連絡事項

事務部長 佐藤聡史

## 学会ホームページの“いま”

総務局理事 芳賀正之（静岡大学）

## 8月31日（火）期限の手続き

全国大会 参加費等割引 適用期限	8月31日付の納入まで、参加費等の割引が適用になります。 (割引対象：参加費、懇親会費)
------------------------	---

## 随時受付

変更届け	氏名、住所、勤務先、職名、メールアドレスなど、個人情報に変更が生じた場合、速やかに連絡をお願いいたします。
------	---

※特にメールアドレスを変更された方が少なくありません。新規入会后、アドレス変更をされた方で届け出をしていない方は必ずアドレスを連絡してください。

## 会員番号を確認ください

—ミスの防止のために—

事務部では、会員情報データベースを参照する際のミスを未然に防止するため、会員番号を1名1つ割り当てています。郵送物はすべて宛名欄に番号を明記しますので、皆様におかれては、会員番号としてご理解いただき記録、記憶をお願いします。

- この郵送物の封筒宛名部分にある1桁から3桁の数字が会員番号です。
- 電子メールでの一斉連絡など、個別のもの以外は、会員番号が記されます。

## 学会誌のバックナンバー

バックナンバーを提供していただける方は事務部へお知らせください。毎年バックナンバーを必要とする問い合わせがありますが、現時点では対応できないケースが多くご迷惑をおかけしている状況です。また将来的なアーカイブのためにも必要です。

事務部の保管能力の関係で、1つの号につき最大5冊ほどが限界ですが、よろしくお願いたします。

平成20年に大学美術教育学会のWebサイト（学会ホームページ）を開設しました。サイトのアドレスは、以下の通りです。

<<http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>>

実のところ、日本学術会議協力学術研究団体の登録申請において、サイトの開設が条件の一つとなることから立ち上げた経緯があり、もちろん、学会運営の充実や活動を促進する上で必要だったこともありますが、学会ホームページを運営していくには管理者の問題がありました。そこで、管理者を分散させることを目的に、Webサイトの作成においてはWikiシステムを導入しました。これは、一般的にウィキペディアで知られるようになったソフト（システム）でもあります。WikiによるWebサイトのよさは、ソフトやデータがすべてサーバー上に置いてあり、多数で管理や更新できる点にあります。ホームページというよりはブログに近いもので、すべてサーバーにアクセスして作業を行いますので、ログインすればどのパソコンからでもページの作成や編集を行うことができます。しかしながら、このWikiはウィキペディアのサイトの画面に見られるように、基本は文字情報となります。あくまでも文字情報が中心であって、写真等を多く掲載することは困難といえます。今後は、ホームページ作成用のソフトを使って、コンテンツやその項目の並びを現状の学会の活動に併せて、また写真を多く載せ、情報発信（広報）を主に考えたサイトにしていければと考えています。

## 【総務局広報室】

- ・山田一美（東京学芸大学）：「第23号」担当
- ・内田裕子（埼玉大学）：「第23号」編集担当
- ・大泉義一（横浜国立大学）
- ・小泉 薫（お茶の水女子大学附属中学校）
- ・芳賀正之（静岡大学）